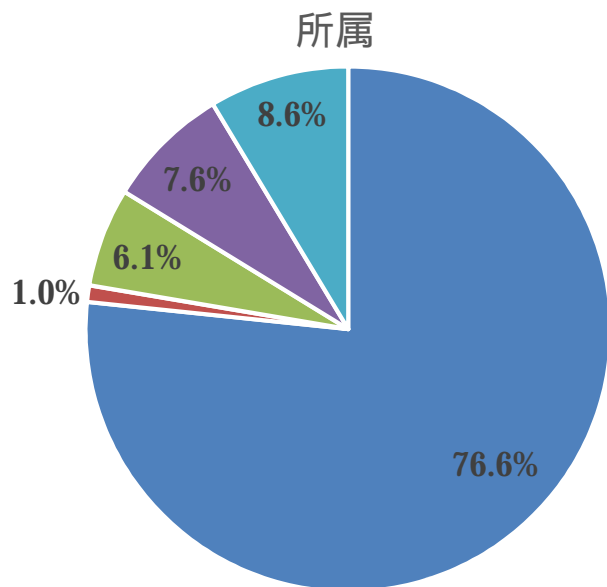


「研究費の安定性に関するアンケート (研究者向け)」集計結果

研究費の安定性に関するアンケート調査結果(研究者向け)

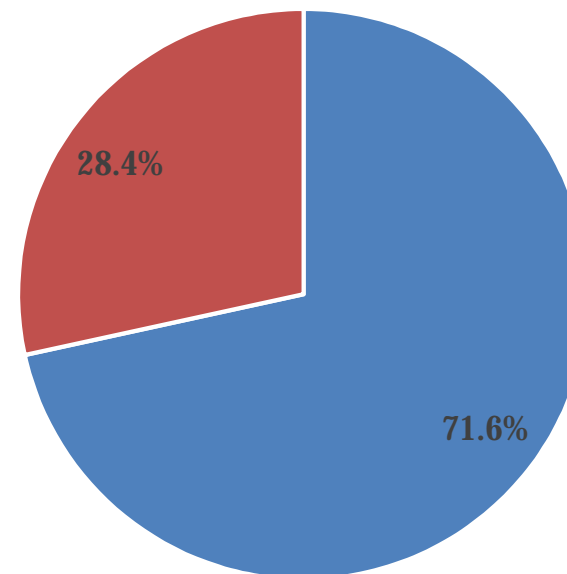
所属について



所属について	回答数	回答割合
(1) 国立大学	151	76.6%
(2) 公立大学	2	1.0%
(3) 私立大学	12	6.1%
(4) 大学共同利用機関法人	15	7.6%
(5) その他	17	8.6%

設問1. これまでに「特別推進研究」又は「基盤研究(S)」に応募して不採択となったことがありますか？

Q1 回答割合



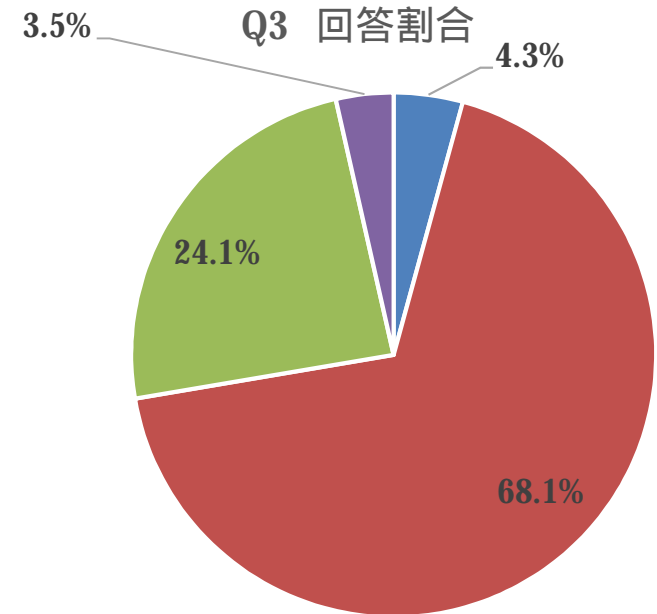
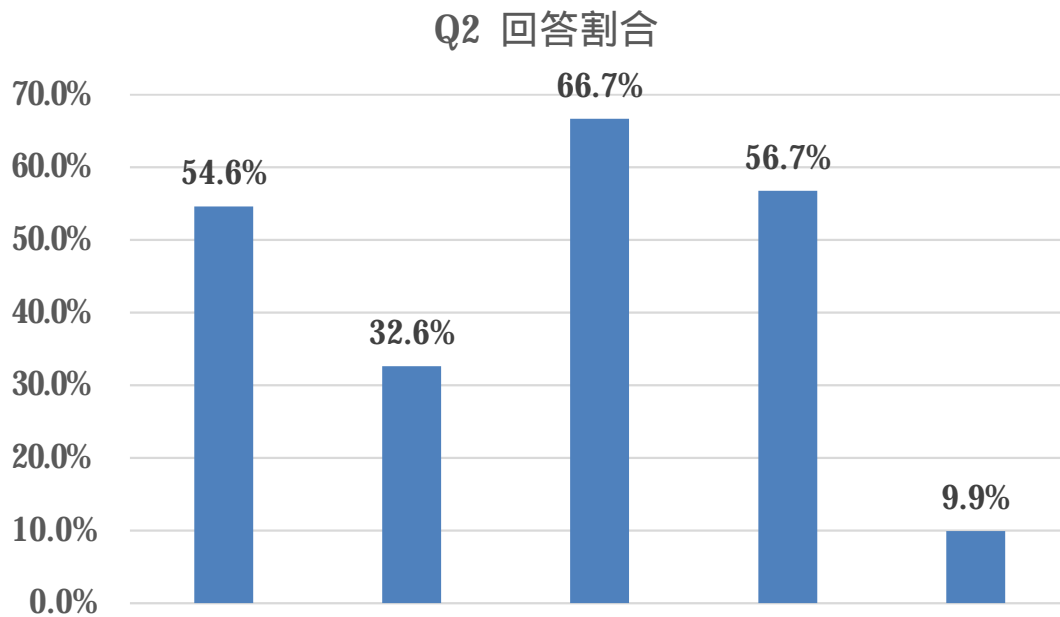
回答	回答数	回答割合
(1) ある	141	71.6%
(2) ない	56	28.4%

調査対象: 平成26年度～平成28年度に「特別推進研究」もしくは「基盤研究(S)」に応募し、採択されたあるいはヒアリングまで残った研究者(計553名)
 調査期間: 平成29年5月19日～5月26日
 回答率: 35.6%(197名)

研究費の安定性に関するアンケート調査結果(研究者向け)

設問2. 「特別推進研究」又は「基盤研究(S)」が不採択となった結果、従前からの研究活動の継続や研究室の運営に関し、どのような影響が出ましたか？特に影響があったものについて、次から3つまで選択してください。

設問3. 「特別推進研究」又は「基盤研究(S)」へ応募した研究計画が不採択となった結果、当該計画の実施について、どのように対応しましたか？次から最も近いものを1つ選択してください。



回答	回答数	回答割合
(1) 継続的な実験・調査等の中止・縮小等	77	54.6%
(2) 国際共同研究など国際交流・連携の中止・縮小等	46	32.6%
(3) 研究支援者等の研究体制の縮小	94	66.7%
(4) 研究設備の更新の中止・延期等	80	56.7%
(5) 大学院学生の受入れの縮小等	14	9.9%

回答	回答数	回答割合
(1) ほぼ計画どおりに、当初予定していた時期から着手した	6	4.3%
(2) 計画を見直した上で、当初予定していた時期から部分的に着手した	96	68.1%
(3) 資金確保の見通しが立つまで、計画実施を全面的に延期した	34	24.1%
(4) 当該研究課題に係る研究計画の実施を全面的に断念した	5	3.5%

調査対象：平成26年度～平成28年度に「特別推進研究」もしくは「基盤研究(S)」に応募し、採択されたあるいはヒアリングまで残った研究者(計553名)

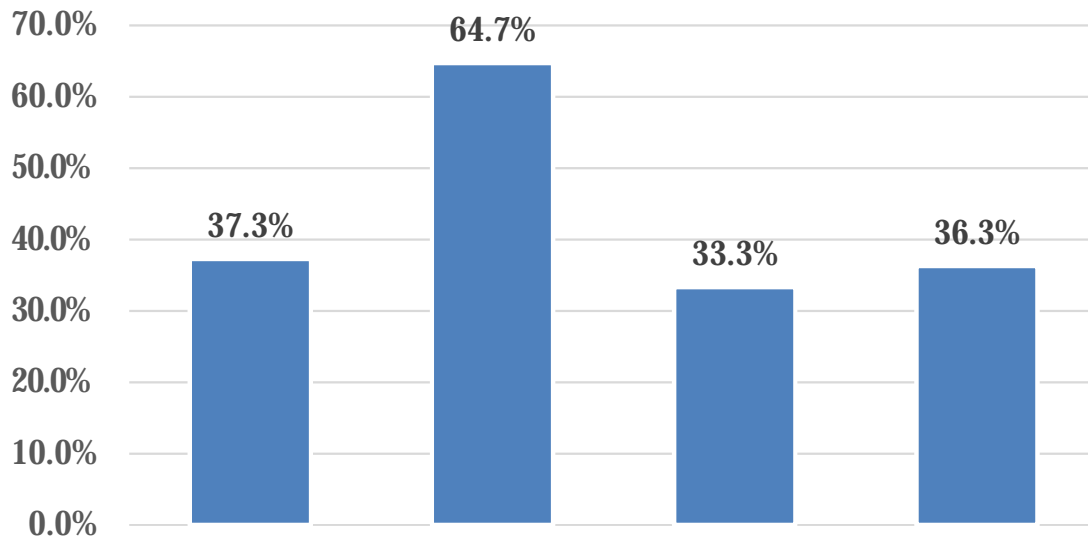
調査期間：平成29年5月19日～5月26日

回答率：35.6%(197名)

研究費の安定性に関するアンケート調査結果(研究者向け)

設問4 . (Q3で(1)又は(2)と回答した者)当初予定していた時期から計画に着手するため、不採択となった科研費に代替する資金として、どのような種類の研究費を確保しましたか?次から選択してください(複数回答可)。

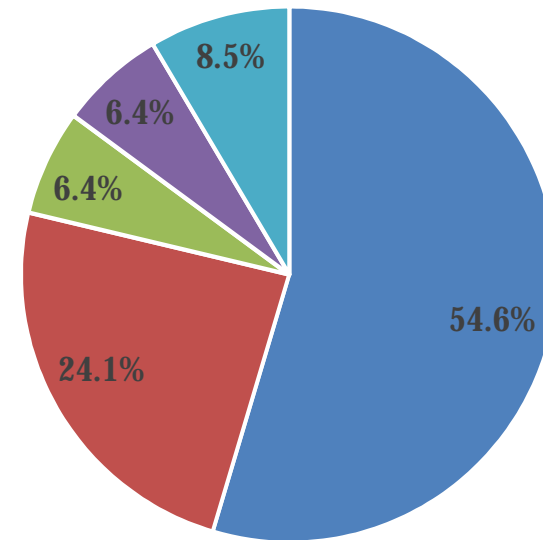
Q4 回答割合



回答	回答数	回答割合
(1) 所属研究機関の内部資金	38	37.3%
(2) 科研費の他の研究種目に係る資金	66	64.7%
(3) 科研費以外の公的研究費	34	33.3%
(4) 民間資金等(研究助成財団等の資金を含む)	37	36.3%

設問5 . 不採択となった後、科研費の次回以降の公募に際し、どのような対応を取りましたか(対応の予定を含む)?次から1つ選択してください。

Q5 回答割合



回答	回答数	回答割合
(1) 同様の研究課題に係る研究計画により、「特別推進研究」又は「基盤研究(S)」に応募した(応募する予定)	77	54.6%
(2) 同様の研究課題について、研究計画を見直し、より小規模の研究種目に応募した(応募する予定)	34	24.1%
(3) 他の資金の目途がついたので応募しなかった	9	6.4%
(4) 当該研究課題に係る研究計画による応募を断念した	9	6.4%
(5) その他(対応を検討中等)	12	8.5%

調査対象: 平成26年度~平成28年度に「特別推進研究」もしくは「基盤研究(S)」に応募し、採択されたあるいはヒアリングまで残った研究者(計553名)

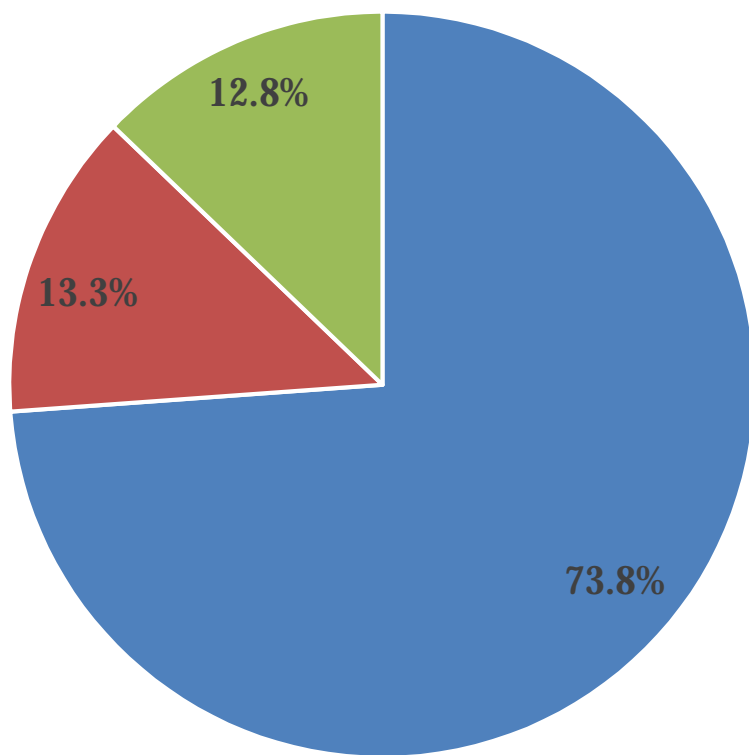
調査期間: 平成29年5月19日~5月26日

回答率: 35.6%(197名)

研究費の安定性に関するアンケート調査結果(研究者向け)

設問6 現行の科研費制度では、不採択となった場合に、審査における評価の高低等に関わらず、助成を全く受けることができません。これに対し、文部科学省の「基礎科学力の強化に関するタスクフォース」は、「所定の要件を充たす優れた研究の継続性に配慮した、助成水準の激変を緩和する仕組み」を検討することとしています。こうしたことを踏まえ、現行方式についてどのようにお考えですか？あなたのお考えについて次から1つ選択してください。

Q6 回答割合



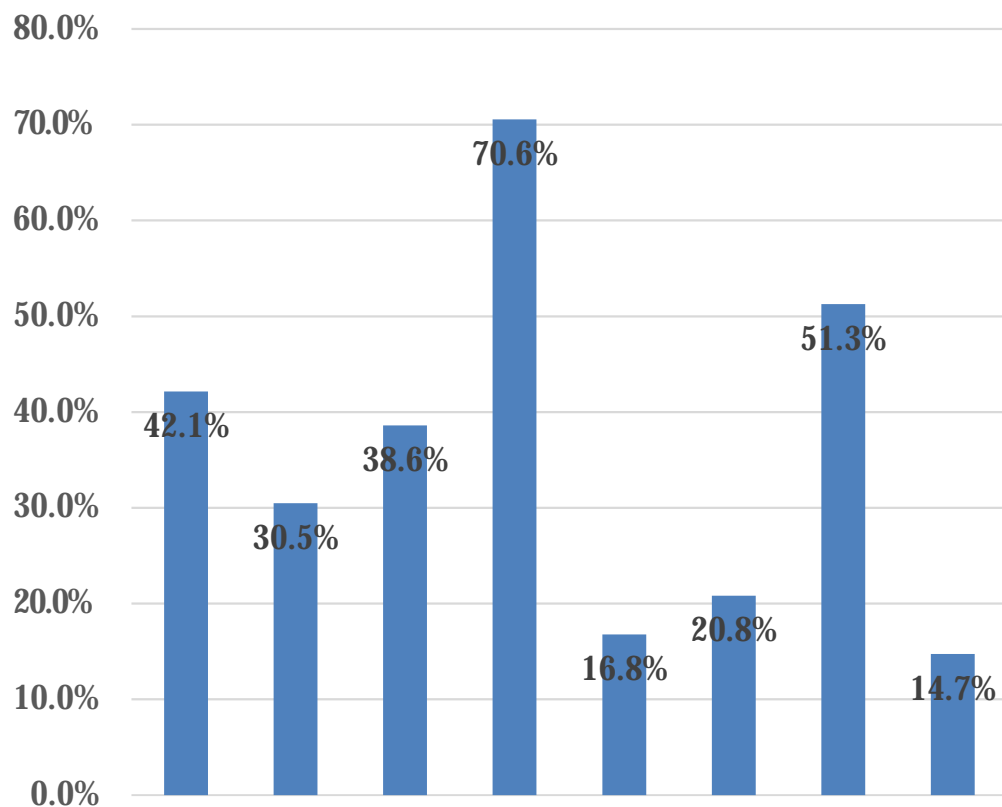
回答	回答数	回答割合
(1)改善を検討すべき	144	73.8%
(2)現行方式で良い	26	13.3%
(3)どちらとも言えない	25	12.8%

調査対象：平成26年度～平成28年度に「特別推進研究」もしくは「基盤研究(S)」に応募し、採択されたあるいはヒアリングまで残った研究者(計553名)
調査期間：平成29年5月19日～5月26日
回答率：35.6%(197名)

研究費の安定性に関するアンケート調査結果(研究者向け)

設問7 現状、小規模研究種目を中心に応募件数が増加してきています。このことについては、不採択リスクを軽減するため、研究計画を縮小し採択件数の多い小規模な研究種目を選択する傾向があるとの指摘もあります。こうした状況を踏まえ、学術研究遂行上、どのような点が問題とお考えか、次から近いものを3つまで選択してください。

Q7 回答割合



回答	回答数	回答割合
(1) 研究費の確保が不十分になり、必要な研究環境を整備・確保できない	83	42.1%
(2) 構想していた研究計画の縮小により、十分な研究成果が挙げられない	60	30.5%
(3) 研究者が本当にやりたい挑戦的な研究が実施できない	76	38.6%
(4) 長期的な視野に立った研究ではなく、短期的成果が見込めるような研究に偏ってしまう	139	70.6%
(5) 国際共同研究の実施や国際共同ネットワーク構築に影響がでる	33	16.8%
(6) 新たな学術領域研究への進展が阻害される	41	20.8%
(7) 日本の研究水準(国際的な競争力)の低下	101	51.3%
(8) その他	29	14.7%

調査対象: 平成26年度～平成28年度に「特別推進研究」もしくは「基盤研究(S)」に応募し、採択されたあるいはヒアリングまで残った研究者(計553名)

調査期間: 平成29年5月19日～5月26日

回答率: 35.6%(197名)